

修士学位論文

表面構造を考慮した
複眼のリアルタイムレンダリング

平成 26 年度

東京大学大学院 学際情報学府

先端表現情報学コース

136313

佐川 和輝

指導教員 河口 洋一郎 教授

目次

| | | |
|-------|-------------------------|----|
| 第 1 章 | *タイトル* | 1 |
| | 1.0.1 サブセクション | 1 |
| 第 2 章 | 序論 | 3 |
| 2.1 | *研究背景* | 3 |
| 第 3 章 | 関連研究 | 5 |
| 第 4 章 | 周辺技術 | 7 |
| 第 5 章 | 提案手法 | 9 |
| 第 6 章 | 予備実験 | 11 |
| 6.1 | 実験の目的 | 11 |
| 6.2 | 実験方法 | 11 |
| 第 7 章 | 結果と考察 | 13 |
| 7.1 | *サブセクション* | 13 |
| 第 8 章 | 結論 | 15 |
| 8.1 | 結論 | 15 |
| 8.2 | 今後の展望 | 15 |
| | 謝辞 | 16 |

図目次

| | | |
|-----|--------------------|---|
| 1.1 | キャプションだよ | 1 |
|-----|--------------------|---|

表目次

第 1 章

タイトル

タイトルの中身だよ。

1.0.1 サブセクション

サブセクション [?] の中身だよ。(Fig.1.1)

- アイテム 1
- アイテム 2
- アイテム 3。文章に出来るよ

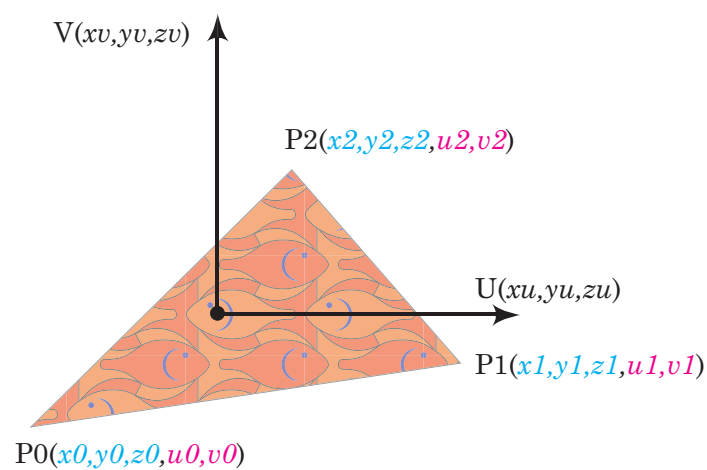


Fig. 1.1 キャプションだよ

行を変えられるみたい

第 2 章

序論

2.1 *研究背景*

ばっくぐらうんどー

第 3 章

関連研究

りれーてっどわーく。

第 4 章

周辺技術

本章では、……と関連の深いなにかかんとか。

第 5 章

提案手法

2.1 節セクションリファレンスとらとらとら。

第 6 章

予備実験

6.1 実験の目的

実験の目的は……これこれこういうことですよ～。

6.2 実験方法

こんな風にして実験を行いましたよん。

第 7 章

結果と考察

7.1 *サブセクション*

さぶせく～～。

第 8 章

結論

8.1 結論

本研究では、複眼のリアルタイムレンダリングを行った。などなど。以下の成果を確認できた。

-
-
-
-

本研究は～だけではなく……………。

8.2 今後の展望

第 8.1 章で既述したように……………。といった使い方ができる。

謝辞

あとは謝辞をつらつらと書くだけよん♪

以上

1 p ~ 18 p 完

修士学位論文

平成 26 年度

東京大学大学院 学際情報学府先端表現情報学コース

136313 佐川 和輝